



国立公文書館	
分類	
	③ ④
配架番号	3 A
	14
	33-47

49-22 5005

兵器調兵第九號
極秘用済焼却

兵器ニ關聯スル編制、裝備
並ニ兵器活用其他ニ關スル
意見、蒐錄、其二

(ジャワ作戦部隊之部)

国立公文書館	
分類	
配架番号	33-47

昭和十八年三月二十八日
陸軍兵器行政本部調査部

SHIPPING ADVICE# 10112
SACK # 7
ITEM # 180



めく
れ
ず

目次

一 緒言	一
ニ ジヤの攻略作戦ノ特性並ニ経過ノ概観	二
三 ジヤの作戦地ニ於ケル地形及氣象並ニ其ノ兵器ニ及ボセル影響	四
四 兵器ニ關スル部隊裝備上ノ意見	七
五 兵器活用ニ關スル意見並ニ參考事項	一四

一 緒言

一本蒐録ハ兵器ニ關聯スル編制、裝備並ニ兵器活用ニ關スル意見其ノ他參考事項ヲ南方作戰參加部隊ノ報告其ノ他ニツキ調査蒐録シ研究審查ノ參考ニ資セントスルモノナリ

ニ本冊ハ第二次調査トシテジヤの作戰部隊ノ所見ヲ蒐メタルモノニシテ一部獨立部隊（東海林、坂口兩支隊）ノ書翰ハ未着ナルタメ之ヲ缺如セリ

三 ジヤの攻略作戰ハ僅々九日間ノ至短時日ヲ以テ終了シ從ツテ參加諸部隊ノ經驗亦乏シカリシ關係モアランカ所見事項ハ比較的少カリキ然レドモ實戰ノ體驗ニ基ク各部隊ノ貴重ナル意見ハ努メテ之ヲ蒐録シ且當時ノ生々シキ實感ヲ減却セザランガタメ成ルベク原文ノママ之ヲ掲載セリ

ニ ジャワ攻略作戦ノ特性並ニ經過ノ概要

1. 特性

- (イ) 敵海、空軍ノ攻撃下ニ於テ敢行セル上陸戦
- (ロ) 全兵團ノ自動車化ニヨリ迅速ナル機動作戦ノ遂行

2. 作戦經過ノ概要

軍ハ昭和十七年三月一日未明猛烈ナル敵海、空軍ノ抵抗ヲ排除シ
軍主力ヲ以テパンタム灣アウラン岬附近及ボラタ附近ニ、東海林支
隊ヲ以テエントン附近ニ、第四十八師團及坂口支隊ヲ以テタラガシ
附近ニ夫々敵前上陸ヲ敢行シ爾後隨所ニ敵ノ抵抗ヲ破摧スルト共ニ
組織的且徹底セル道路ノ破壊、阻絶ヲ克服シツツ一帯前進ヲ強行ス
第二師團ハ佐藤支隊ヲ以テ五日バタビヤ市ヲ、那須支隊ヲ以テ六日
ホイテソルヲ占領ス

東海林支隊ハ第三飛行團ノ有効ナル協同ノ下ニ數次ニ亘リ優勢ナル
機甲部隊ヲ伴ヘル敵ノ反撃ヲ擊摧シテ敵ヲパンドン要塞内ニ蟄伏セ

シメ更ニ戰勢ヲ驅リテ五日ニハ急襲克ク予ヤサル南方敵主陣地帯ノ
一角ヲ突破シパンドン方面敵軍主力ニ致命的衝動ヲ與ヘ坂口支隊亦
相次デスラカスル、ジロタジヤカスル、マジン、スマラン、ブルカケルト等
ノ各要衝ヲ援キ八日遂ニ予ヤサルヲ占領シ敵軍ノ退路ヲ完全ニ
遮斷スルニ至レリ

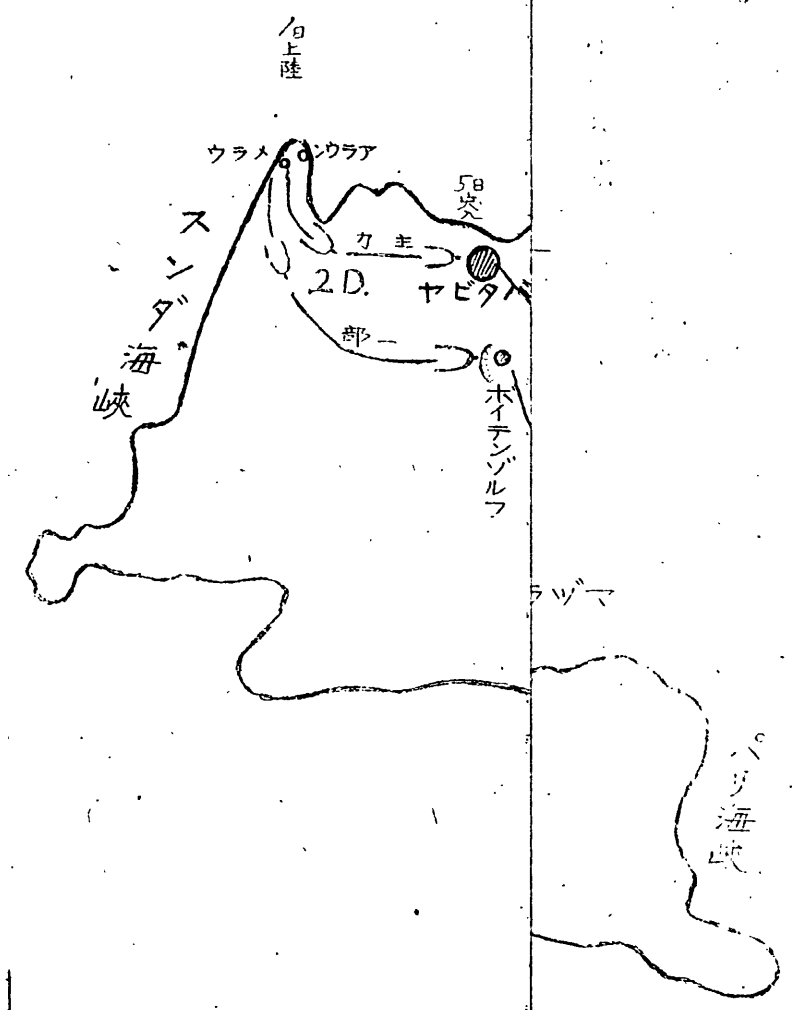
第四十八師團ハ其ノ進進隊ヲ以テ二日夕チエブーヲ占領、主力ハ同
地附近ソ回河橋梁ノ完成ヲ待チ四日行動ヲ發起シケデイリヲ經テブ
ラシカス河ノ右岸地區ニ進出シ六日早クモロジロケルトニ突入セリ
爾後軍ハ着々敵ヲパンドン及スラバヤノ兩地區ニ壓縮スルタメ各方
面共夫々戰果ノ擴充ヲ圖リツツアリシガ八日午後ニ至リ敵ハ遂ニ全
面の無條件降伏ヲナシ茲ニジャワ全土ノ戰定ヲ終了セリ

3. 作戦經過概見圖次ノ如シ

三 ジヤワ作戦地ニ於ケル地形及氣象竝ニ
其ノ兵器ニ及ボセル影響

一 地 形

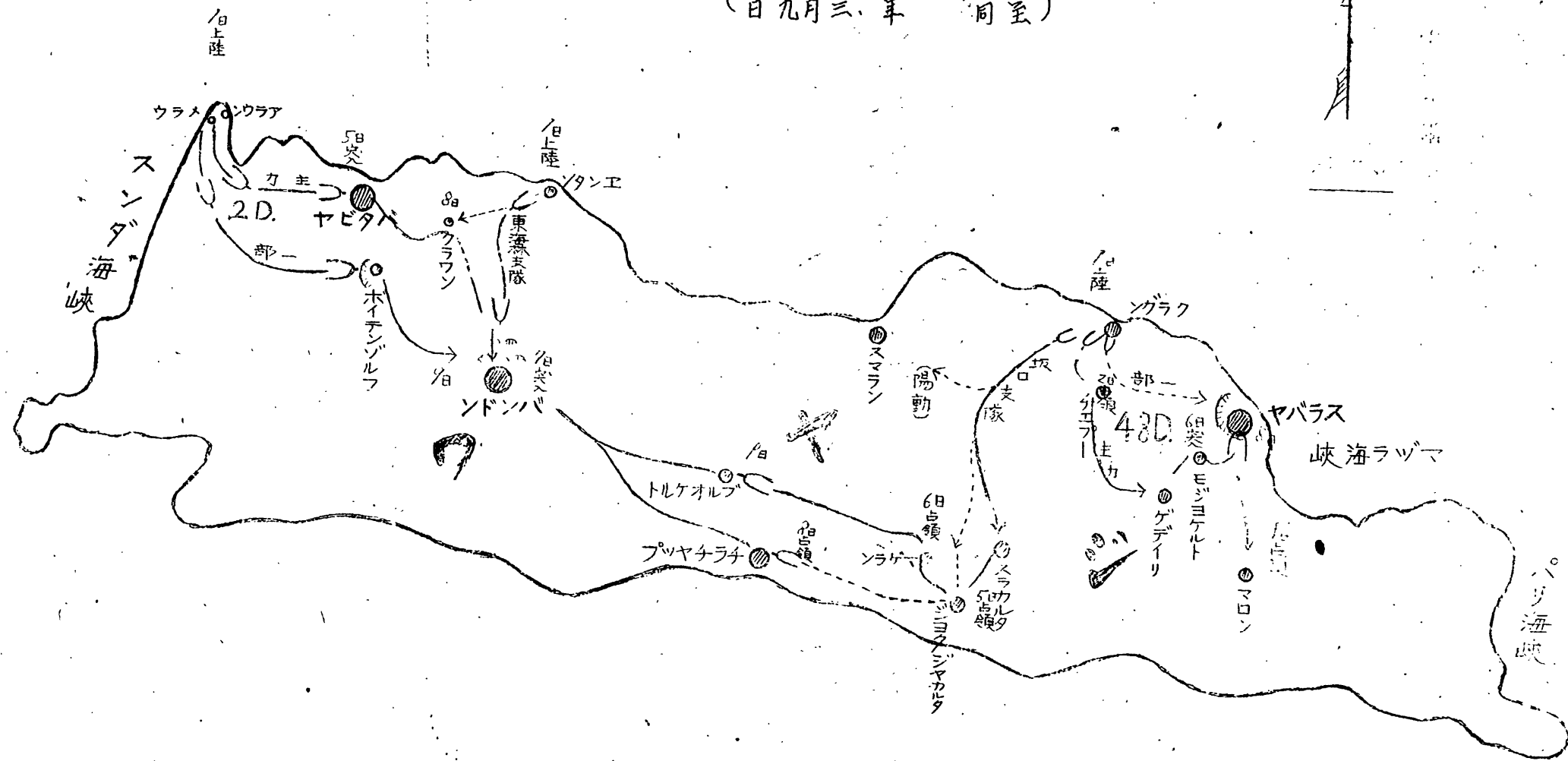
上陸海岸ハ砂濱ニシテ道路ニ近接シ自動車ノ揚陸ニモ適セリ但シ
上陸後ノ前進ニ於テ多少水田ヲ通過セルモ戦前ニ於テ想像セルガ如
ク泥濘ナラズ
主要道路ハ幅六米乃至八米ノ良道ニシテ自動車、自轉車ノ使用ニ便
ナリ又作戦地域ハ概シテ平坦地ニシテ運動容易、道路以外ノ迂回モ
亦容易ナリキ
河川ハ水量豊富ニシテ徒涉シ得ザルモノ多ク堰堤及ビ閘門ヲ以テ之
ヲ調節ス諸小流ハ兩岸三米余ノ斷崖ヲ成シ橋梁破壊セラレシカ通過
設備ニ相當ナル作業力ヲ要スルモノアリ
作戦地ハ沿道ニテ一少林多ク休憩地ニ適ス而シテ道路ノ兩側ニハ概
ネ繁茂セル並樹アリ對空遮蔽ノタメ極メテ便ナリキ





図見概過経戦作略攻ワヤジ

(日一月三年七十和昭自)
(日九月三、年 同至)



裏面白紙

設備ニ相當カハ作業ヲ要スルハ概
作戦地ハ沿道ニテ一ツ林多ク休憩地ニ適ス而シテ道路ノ兩側ニハ概
ネ築茂セル並樹アリ對空遮蔽ノタメ極メテ便ナリキ

二 氣 象

本作戦當時ハ恰モ雨期ニシテ毎日降雨アルヲ常トスル由ナリシモ作戦開始ヲ通ジ大ナル降雨ヲ見ズ又氣溫ハ著シク高カラズ特ニ自動車ニ依リ機動セル部隊ハ大ナル苦痛ヲ覺エザリキ

三 地形及氣象ノ兵器ニ及ボセル影響

本作戦間兵器ノ使用上格別ノ支障ヲ認メザリシモ唯通信ノ實施ニ當リ大ナル妨碍ヲ受ケタリ即チ無線ニアリテハ毎日概ネ一六〇〇頃ヨリ夜半ニ至ル間全部ノ使用周波數ニ對シ大ナル空電ノ妨碍ヲ受ケ之ガタメ電報送受ニ當リ時ニ數回ニ亘リ反響送信ヲナスノ必要ヲ生ジ又遠距離ニ於テハ時々通信困難ニナルコトナリキ（周波數的ニ波ブレ、バニ、〇〇以下ガ通信困難ニナルコト多シ）
又有線ニアリテハスロムル及其ノ後ニ來ル強烈ナル日光ノ直射ノタメ被覆線ノ膨脹ヲ來シスロムル時地氣ヲ發生シシムルコト屢々ナリキ

兵器ニ關聯スル部隊裝備上ノ意見

六

通信器材

一 無線通信機ノ裝備ハ現在五號機四、三號甲一ナル
モ三號甲ハ二（一對向）ヲ裝備スルヲ要ス

（機 二）

理由

搜索部隊ハ通常遠距離ニ行動スル場合多キト將
校斥候若クハ獨立シテ行動スル部隊ニ配屬使用
スル場合ヲ考慮シ一對向ヲ必要トス

一 連絡ノタメ工兵聯隊ニハ三號無線機少クモ二機必
要ナリ

理由

（機 一）

聯隊ニハ六號機四ニ小型無線機三ヲ有スルモ本

河工器材

作戰ノ如キ機動力大ナル場合ニハ通信機ノ能力
低ク使用不可能ナリ

一 部隊裝備トシテ左記材ヲ可及的速ニ整備スルヲ要
ス

重 門 橋

六

自走式製材機

一

同 起重機

一

（機 一）

理由

從來各種作戦ニ參加シ其ノ跡ヲ隠ミルトキ戦場

銃
器

ニ於ケル獨工ノ任務ハ敵前渡河ヲ除クノ外主ト
シテ師團及軍主力前進路ノ開設ト確保ニ終始セ
リ而シテ軍全般ヨリ見テ最近著シク重車輛増大
セルモ之等重車輛部隊ヲシテ戦機ニ投ジテ渡河
セシメ或ハ機ヲ逸セス障礙ヲ排除シテ前進セシ
メシガタメニハ聯隊現在ノ裝備ニテハ甚ダシク
自信ニ乏シ本作戦ノ進展ニ微シ獨工聯隊ノ裝備
改善ヲ痛感セリ

一 將來獨工聯隊ニ對空射撃用トシテ高射機關銃ヲ裝
備スルヲ要ス

理由

上陸戦間ニ於ケル敵航空機ノ攻撃ニ關スル危險

(獨工二八)

通
信
器材

トシテ敵ハ我が航行間及泊地進入時ニハ高度約
八千米(泊地ニ於テハ約四千米マデ降下セシモ
ノノ如シ)ノ上空ヨリ主トシテ我が輸送船團目
撃ケテ爆撃シ又拂曉後舟艇群ニ對シ低空掃射ヲ
行フヲ常則トス之ガタメ湯陰隊トシテハ機關銃
射撃ノ設備ヲナスコト、装甲艇等ニ依ル防空艇
ヲ配置スルコト、舟艇ヲ密集セシメザルコト等
肝要ナリ
今同モ地上射撃ニヨリ九機中三機ハ明確ニ撃墜
セラレタリ

一 獨工聯隊ノ各中隊ニハ六號無線機ヲ裝備スルヲ要
ス

(獨工二八)

理由

揚陸時艇隊航行ニ於テ中隊長ガ各小隊ヲ指揮スルタメ必要ニシテ殊ニ火光信號、指揮信號等ノ使用ハ防空上不利トスルヲ以テナリ

機甲車輛

一獨工聯隊ニ牽引自動車少クモ各中隊一輛ヲ整備スルヲ要ス

理由

(獨工二八)

砂濱海岸ニ於ケル自動車ノ揚陸ニハ棧橋ヲ構築スルヨリモ初期ニアリテハ寧ロ牽引自動車ニテ牽引スルヲ得策ナリトス
今岡ノ上陸ニハ陸上隊及建築隊ヲ以テ棧橋ノ構

一中隊指揮機關ニハ少クモ一輛ノ傳令戰車ヲ整備セシムルヲ要ス

理由

(戰車 四)

實戰ノ經驗ニ徴シ其ノ必要ヲ痛感ス特ニ戰軍中隊他部隊ニ配屬セラレタル場合ニ於テ然リ

一防空隊司令部ノ現裝備(乘用車二、貨車四)ニ依

築及土嚢ノ準備ヲナセルモ棧橋ヲ使用セシハ第二回以後ナリ又土嚢ハ海岸水際附近ニ使用セラレタルノミニシテ陸上隊ハ主トシテ人力ヲ以テ自動車ヲ牽引シ又牽引自動車ニテ自動車ヲ引揚ゲタリ從ツテ最初ヨリ牽引自動車ヲ使用セバ更ニ兵力ヲ節約シ得且能率的ナリシナラン

ル長途行軍ハ相當困難ヲ生シ全人員器材ヲ積載ス
ルコト殆ンド不可能ナリ貨車ハ少クモ六割トシ内
一、二割ハ牽引車ヲ含マシムルヲ要ス

(一八野戦司令部)
防空隊

一三

兵器活用ニ關スル意見並參考事項

偽

機

一 自動車ノ偽装ニ就テ

自動車ノ偽装ハ作戦地ノ特色ニ適應セシムル如クスルヲ要ス今次作戦地ハ常緑ノ地且待命期間相當豫給アリシヲ以テ偽装ヲ之ニ合セシムル如ク豫メ實施シ置クヲ可トスルナラン若シ防護上之ヲ不可ナリトセバ作戦地上陸後機ヲ見テ實施シ得ル如ク所要ノ材料ヲ軍ニ交付シ置クヲ必要トス

(二三野戦自動車廠)

機 甲 車 輛

一 道路作戦ト装甲車ノ價值ニ就テ

今次ノ如キ特異ノ作戦ニ於テハ装甲ヲ強化セル快速ノ装甲車ヲ使用スルヲ可トス特ニ先遣隊ヲ使

用スル情況ニ於テ然リトス現在ノ戦車ハ自動車ノ行動ニ追隨シ得ス從ツテ一氣ニ長距離ヲ突進セントスルトキニ於テ遺體ノ點綴カラズ比島作戦ニ於テ亦本作戦ニ於テモ敵ガ装甲車ヲ使用セルハ以テ參考トスルニ足ルベシ

(續 四八)

一 自動車隊ノ活用ニ就テ

自動車隊ノ價值ハ絶大ナリレウリアン橋梁ヲ初メトシテアイザンゾルヲ市ニ至ル各橋梁ヲ遮斷セシレ自動車、装甲車等ハ全ク用ヲ爲サザリシモ幸ニ若干ノ自動車隊アリテ敵情ノ搜索進路ノ開拓等ニ効果至大ナリキ又搜索隊ハ編制上自轉車ヲ有セズ爲メニ全ク機動部隊トシテノ活動ヲ停止スルニ

至レリ將來搜索戰ノ乗車中隊ハ自動車停止セバ全
員自動車ニテ行動シ得ル如ク複式裝備トスルヲ可
トス

(二歩兵團司令部)

油

一 自動車用油ノ性能検査ニ就テ

本作戦間各地ニ於テ相當量ノガソリンヲ鹵獲セ
シモ之等ガソリン中ニハ松脂可蝕液等ヲ混入シア
リシモノアリ之ヲ知ラスシテ使用シ爲ニ自動車ノ
運行ニ支障ヲ來シタル例アリ故ニ占領地ニ於ケル
鹵獲品ハ速カニ其ノ品質機能等ヲ検査シテ使用ス
ルノ注意ヲ要ス

(二師司令部)

通信器材

一 上陸戦ニ於ケル器材ノ防濕ニ就テ

上陸時各種器材ノ防濕ニ關シテハ十分ナル準備
ヲ必要トス特ニ通信器材等ハ甚ム其ノ防濕等ヲ
豫メ準備シ十分ナル處置ヲ講ズルヲ要ス
今次上陸戦ニ當リテモ六號無線機ノ防濕不十分ノ
タメ益ク使用不可能ニ陥リタルモノ數機アリ

(歩 四)

一 通信器材ニ對スル要望

1. 空界ハ海軍ヨリ夜間ニカケテ空電極メテ多ク感
度三以下ニアリテハ電報ノ送受困難ナリ空電防
止裝置ヲ完全ナラシムルヲ要ス
2. 受信器
ヘビーイン抵抗器ノ不具合ニ依ル故障多發セ

リ該部位製作上研究ヲ要ス

3. 送信器

空中線交換機線ノ把手緊定不具合ノモノ多シ
4. 真空管ツケツトハ從來ノベークライト製ヲ廢シ
又ツアタイト製若クハ瀬戸製ノモノヲ使用シ耐
震設置ヲ施シ尙脚部ハ角形又ハ方錐形トシタル
モノヲ必要トス

5. 發電機

齒車ハベークライト製及金屬製ノ組合セニヨリ
燃音ハ防止セラレアルモ尙相當距離ニ燃音ヲ傳
播ス良質グリーニスノ配當ト外面ノ工夫ニ依ル燃
音ノ防止法ヲ研究スルヲ要ス

6. 内部配線ニ使用セル塗料濕熱ノタメ熔解セルヲ
以テ乾燥性良好ナル乾燥塗料ヲ使用スルヲ要ス

(歩 四)

一 乾電池ノ電壓降下防止ニ就テ

市販ノ乾電池(主トシテB十八型)中ニ各端子
ノ接續紐金屬部ヲ露出シタルモノ多キタメ航行間
又ハ上陸後ノ濕氣多キ期間ニ於ケル戰艦間隙ヲ發
シテ抵抗生ジ若シク電壓降下シテ使用ニ堪エザル
モノアリ當餘ニ於テハ不良部ヲ交換若クハ短絡ハ
シテ付シナシ良好ナルモノニ對シテモペン等ニ
テ塗膜シ以テ電壓降下ノ防止及不良品ノ利用ニ努
メリ

(歩 四)

一 自動車部隊ノ指揮運用ト無線機ニ就テ

本作戦ノ如キ迅速ナル機動作戦ニ於テハ機能優

秀ナル三號甲無線機ノ部隊裝備ノ必要ヲ認ム

今次作戦ニ於テ部隊ノ行動長遠ナリシタメ通信距

離ノ大(約七〇軒ニ及ベリ)ト時期的ノ不良ナ

ル空界ニ依リ現在準備シアル五號無線機ニテハ一

日ノ内相當長時間ニ亘リ通信困難ナリシコトアリ

機動作戦ニ於テ情況ノ變化ニ應ズル自動車部隊ノ

指揮運用ノタメニハ優秀ナル無線機ニ依リ連絡手

段ヲ即ズルコト特ニ緊要ナルヲ痛感セリ

(二)

一 海上輸送間ニ於ケル通信機ノ防濕ニ就テ

熱地ニ上陸作戰スル部隊ハ通信器材乾燥ノタメ

ノ資材ヲ携行シ船内ニ於テ絶エス點檢乾燥ヲ行フ

ヲ要ス即チ今次作戰ニ於テハ海上ニ在ルコト實ニ
四十日然モ海上ノ船内ハ高温多濕ニシテ器材ハ船
内ニ於テ感度ヲ低下シ且浸錆ヲ見タリ
アドゾール等乾燥資材ハ必ズ携行スベキナリ

(二師通信隊)

一 海上輸送間ニ於ケル乾電池ノ保存ニ就テ

熱地地方ニ於テ四十日間海上ニ在リシタメ一部

密閉ニサリシ電池ハ電圧ノ低下甚大ニシテ使用不

可ニナレリ然レドモ彈藥箱ニ收容シテ密封シ來

レル部隊ノモノハ事ナキヲ得タリ故ニ電池ハ携行

ニ當リ必ズ密封スルヲ要ス

(二師通信隊)

一 上陸時ニ於ケル通信機ノ浸水防止ニ就テ

今次作爲ニ於テハ上陸部ノ沿岸ハ珊瑚礁ナルヲ
メ小間凸多ク大一小一發動機ヨリ上陸ノタメ海中
ニ飛込ミ全員殆ンド胸部マデ海水ニ浸セリ而シテ
部隊ニ於テハ海ノ深ム處ノ防水襪ヲ準備シアリタ
ルモ電氣機ニ腐蝕水浸ノ點口緊定不確實ナリシタ
メ海水シ使用ヲ不能ナラシメタリ上陸時通信機ハ
完全ニ防水装置ヲナスコト必要ナリ

(二師通信機)

一 無線機ニ就テ
現在ノ被覆線ハ無線機トシテハ適當ナラス即チ
強烈ナル日光ノ下ニ暴露ヲ來シハ主トシテ電氣部
次ニ燃料部ニ於テハ電氣部ニ直チニ電氣ヲ生ズル
ニ地面ニ電線ヲ懸及樹上ニ留置セシモノハ一同
ノ爲ニニ於テ地氣ヲ生ズルモノナリ無線機用ト

